

IV まとめと今後の課題

今回の作業の目的は、向上訓練のコースとして、生産自動化に寄与する新しい表現法に関するコース開発の可能性を探ることにあつたが、結論的にいえば、コースの開発は意義があるというばかりでなく、必要度の高いものであることを確信した。それは、アンケート調査及び企業訪問調査の結果が示すように、企業は生産設備の自動化に高い関心をもっていること、その自動化もシステムとして構築しようとする高いレベルの関心を示す企業のある反面、多品種少量生産ゆえに阻まれている自動化を押し進めようとする企業などさまざまであるが、ほとんどすべての企業で緊要な課題であつたことに示されている。生産設備の自動化を阻む現状が、ただ単に技術的問題にのみ起因するものではないであろうが、自動化を支援する技術的方法論が理解されるならば企業の取組みは容易になるであろうことを確信したのである。制御を規制する従来の回路表現に変えて、新しい表現法SFCのコースを開設することは企業の要請に応えることになるのである。

われわれは、このコースの普及と定着を図ることを目的に、平成5年度に、『新しい表現法 (SFC) による自動化システムの設計』として開設することにしてきている。そのために、いま一度、生産自動化に関心をもつ企業を個々に訪問してコース開設の広報活動を計画している。新しいコースを開設するためにきめの細かい広報活動が必要であるからである。ことに、SFCに関する情報をまだ得ていない企業にたいしてはSFCの特徴を理解させることがまず必要であろう。また、このほかにも、実際にコースを開設するにあたっては、さまざまな配慮が必要となる。例えば、SFCを既に取り入れている企業から派遣される受講者を念頭におけば中級レベルのコースの開設が必要であろうし、またSFCに関する理解の低い企業に対しては、初級入門レベルのコースが開設されなければならない。場合によっては、上級のコースが必要とされることもあろう。段階的にコースを開発して受講者の便宜を図ることが大切である。また、コースを普及させ、定着させるためにはカリキュラムが十分に検討され、企業が抱えている問題点に応えることができるようにすることが必要であるし、受講者の理解を助ける教科書の開発も必要となる。今回の作業は訓練ニーズを分析することに

視点が合わされたが、これらは今後の課題となる。これからさらにコース開設と平行して手がけて行かねばならないと考えている。